

わたしが考える道徳授業改善への2つの提言

～「子どもの力」と「交流」～

平野 美和（福島県郡山市立桜小学校）

（福島大学大学院人間発達文化研究科）

提言その1 道徳の授業の質を高めるには「子どもの力」が鍵である

道徳の授業の構造を「教師」「児童」「資料」という3つで構成するものとする。これまでの研究は、「教師」の発問や「資料」の選定や活用方法等々、2つに偏っていたように思うのである。

それだけに「児童主体」「児童の言葉に傾聴」「児童の目線に立った授業」という授業づくりの視点を提唱することは大変重要であると考えます。しかし、「児童」の考えを尊重したり傾聴したりする姿勢を教師が身に付けたとしても、実はこれもまた冒頭で示した授業構造の3つのうちの一つである「教師」を中心とした研究内容項目であると言えるのではないだろうか。

つまり、これは授業者＝「教師」という発想であって、授業者＝「児童」という、「児童」自体が単体で授業を創る者であるという発想とは全く異なるものであることをここに確認したい。このように、授業者＝「児童」に違和感を受ける私たちの概念を崩していくことは思う以上に大変困難であるゆえ、まずはゼロベースで考える必要がある。

この「児童」自体がもつ力を「一人一人の児童及び学級集団がもつ言葉の力」「言葉を介して生み出される子どもの力」と二段階の側面から定義する。（以下「子どもの力」）

「児童」が単体で「子どもの力」を発揮し体感していくためには、他者と交流するための基礎的能力としての「言葉」「言語」の充実が前提条件となる。これが結果として子どもの道徳性の高まりに結びつくものと考えます。こうした一連のサイクルが「教師」「資料」と同等に、「児童」自体の力によっても回り出す状態をもって、「道徳の授業の質が高まる」と言えるものと考えている。

ではどのように「子どもの力」の基礎的能力「言葉」「言語」を高めるか。「一人一人の児童及び学級集団がもつ言葉の力」は、言語力育成の中核を成す国語科の話す・聞く領域を始め、特別活動の「話合う力」の充実にかかわるなど広範囲に渡る力であるので、道徳授業以外の指導を意図的・計画的に実施しながらスパイラルに影響させ合いたい。その上で「言葉を介して生み出される力」を醸成する場として、道徳授業を考え「グループワーク」を授業に位置付けする。

（1）「グループワーク」は ～話合い＋共同活動～

＜「グループワーク」の6つの特質＞

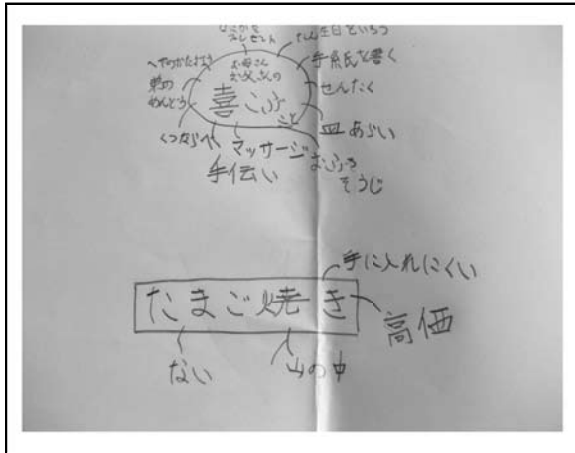
- ① 一人一人の主體的な参加
- ② モチベーションの高まり
- ③ 子ども同士のつながり
- ④ 話合いの方法の選択
- ⑤ 実感を伴う話合い
- ⑥ 共同性



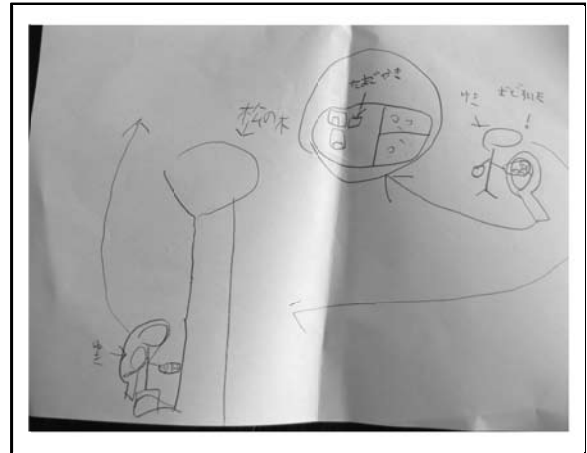
(2) 「グループワーク」の種類と実際 ～固定の活動ではなく、選択と複合～

① トーキングシート法 (中・高学年)

→略してTCという名称で、B4の紙を話し合いの時に活用し、イメージマップを書き出したながら意見を出し合ったり、図式化したりするなど自由に活用し、資料人物の立場や気持ちを考える方法。グループ全員や数名で一枚を自由に活用する。全体への発表のときにもTCを提示することが出来るので、視覚情報としても有効である。



資料「たまご焼き」イメージマップ式で



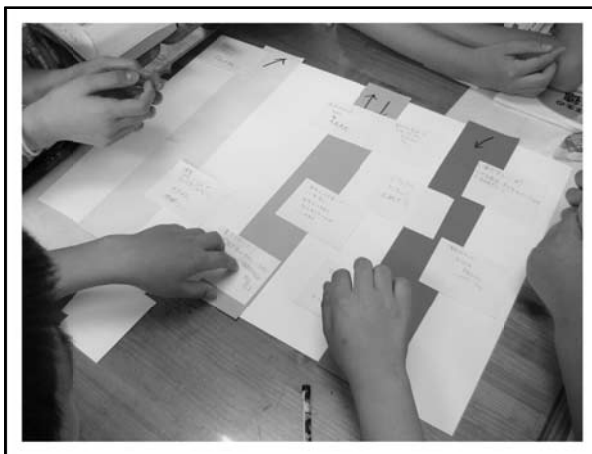
資料「たまご焼き」簡易図式で

② 電話法 (中・高学年)

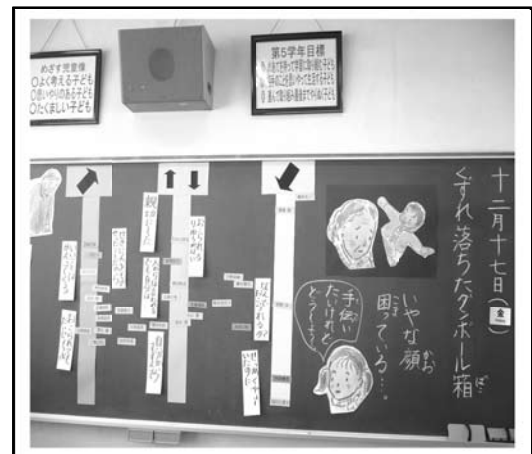
→電話法は、高学年の単体の役割演技としても大変取り組みやすい方法である。「グループワーク」として選定する際には、グループの中で電話する相手同士の役割演技の後、演技者の感想や質問、意見などが適宜交わされながら、もう一度演技したり、交換したりしながら話し合いを深めていく。

③ 気持ち柱法 (高学年)

→登場人物の心情について、三本の柱を軸として、その心の向きと位置、移動を考えていく方法。



グループワークでの「ミニ気持ち柱」



全体での話し合い「ビック気持ち柱」

④ ハートカラー法 (低・中学年)

→登場人物の心情をカラーや模様で表現することで、視覚を通して話し合う方法。

提言その2 道徳授業だからこそを探す ～「交流」でつくる道徳授業～

(1) 小学2年生と中学2年生との交流

① 小中連携道徳授業の目的

小中連携についての交流状況として、主に教科を中心として授業参観をし合う方法などで実施されている場合が多い。しかし、教師中心の情報交流に留まっている傾向があり、形骸化していることは否めない。そこで「道徳授業だからこそできること」として以下を考案し、実施の目的として掲げた。

ア 児童生徒の内面性を重視した教師間交流

イ 地域を基盤とした児童・生徒間交流

ウ 家庭・地域の活性化を生む交流モデルとして、小中連携の授業をさらに推進

② 小中連携道徳授業の実際

小中それぞれの道徳授業において、その内面化を図る効果を高めるために、小・中学校の連携を図り、小学校教諭と中学校教諭のティーム・ティーチングの形態で授業を進めることとした。それぞれの本時のねらいを踏まえた小学校児童の作文（小学校「心のノート」を使った道徳授業）（中学校主題名 「人間の気高さ」〔弱さの克服：3－（3）・関連価値：強い意志1－（2）〕）それに対する中学生の返事を道徳の時間の資料として活用することで、相互の道徳の時間の充実を図れるものと考えた。また、このような授業実践を行い、小学校児童の思いと、それに対する中学校生徒の考えを比較することで、小学校では児童の将来を見通し、中学校ではこれまでの指導の過程を把握し、教師相互が縦のつながりを意識した道徳教育の実践を行った。

(2) 特別支援学級児童と通常学級児童との交流

① 国語ではない、道徳授業ならではの信じて

特別支援学級児童と通常学級の児童との道徳授業を一緒にできないだろうかという提案をしたところ、「高学年であるだけに、資料が難しく読解が難しいのではないか。話し合いに参加できないのではないか。」ということであった。開始する前のこうした心配を払拭する根拠となったのは、「道徳は、国語のような資料読解ではなく、資料をきっかけにして、自分の生活について考え、道徳的価値についてあたため合うのだ」という道徳の本質であった。

② 特別支援学級児童と通常学級児童との道徳授業のよさ

ア 通常学級児童にとって

新たなメンバー構成での授業は、日常の教科学習とは一味違う時間として、道徳の授業への「期待感」が増す。特別支援学級の児童が発する言葉を聴こうとする気持ちじっくりと傾聴し合う雰囲気が高まり、互いを尊重する気持ちに波及し、学級の間関係がさらによくなる。

イ 特別支援学級の児童にとって

日常の小集団の学びでは得られない、多様な考えや価値にふれることができる。また、たくさんの意見を「傾聴」し、自他の発表を通して「認め合い」「賞賛」し合うことで、自分自身のよさに気付くことができ、自尊感情の高まりから、自己肯定感の形成にもつながる。

ウ 双方の保護者にとって

授業参観日の実施により、児童のみならず、双方の保護者同士のつながりも構築できる。また、大人からの見守りや賞賛があり、授業後にも継続的な自尊感情の高まりや自

己肯定感の形成が期待できる。

エ 教師にとって

物語の読解を中心とする国語科と、資料をもとに自分の生活や考え方を話し合う道德の授業の違いが明確になる。週1時間の授業を充実させるべく、事前の授業研究への工夫等が充実する。道德をテーマとした学年間の話し合いはもとより、特別支援学級担任との交流も深まる。

授業の実際 I

第5学年2組道德学習指導案 平成22年11月22日(月) 第5校時

1. 主題名 誠実に(正直誠実・明朗)
2. 資料名 「手品師」(文溪堂 5年生の道德)
3. 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

誠実とは、人が見ている、いないに関わらず、自分の良心に従って行動する心のさまである。心身の成長に伴って、自己が確立される高学年の段階においては、自分に対する誠実さが一層求められる。自分自身の心に嘘をつかずに、真心をもって誠実に行動することは、心の安定をもたらし、明朗快活に生活するための源となる。集団生活の中でも、一人一人が誠実に明るく行動することで、自分と他者との誠実な相互関係が築かれていく。うそやごまかしをしてしまう弱い心は、誰もがもっている。その弱さを乗り越え、誠実に明るく生きていくことの大切さについて、考えを深めさせたい。

(2) 児童の実態

大多数の児童は、常に誠実に明るく生活する大切さについて理解している。また、理想主義的な傾向も強まり、自分の価値観に固執する姿もみられる。それだけに、実生活の場面で、嘘をついたり、ごまかしたりする自分を認めにくくなり、自分の不誠実な行いについては、曖昧にしたり、自己防衛の気持ちから嘘をついたり、ごまかしたりするところがある。一方、集団生活の中で、リーダー的な役割を担う機会が増える。そのような経験を積み重ね、責任感の強まりや社会性の発達により、人とのかかわりやものごとを批判する力が強まってきたこともあり、他人の不誠実さに対しては、厳しく追及する児童もいる。

特別支援教室の児童一名は、自己の喜怒哀楽を表情豊かに表現する。昨年までの技能教科の学習に加え、本年度から一緒に学習することになった道德の時間をいつも心待ちにしている。いつも道德の授業では、資料の登場人物の気持ちをじっくりと考え、大変積極的に自分の考えを発表している。

(3) 資料について

本資料は、売れない一人の手品師と少年との約束をもとに、約束遵守の葛藤、約束を果たした快さが感動的な雰囲気の中で描かれている。売れない手品師にとって、大劇場で演じるという夢の実現は人生の大きな目標そのものであり、そう簡単に投げ出せるものではない。それだけに、夢と約束のどちらも叶うための方法論を述べる児童も予想されるが、一つの答えにきっぱりと決めるまでの手品師の心の葛藤を自分の立場に置き換えてしっかりととらえさせることで、翌日、少年の前で手品を披露する手品師の快い気持ちに共感させたい。そのためには、手品師の立場や男の子の境遇をしっかりと押さえる必要がある。

(4) 指導について

どの子にも分かる授業「道德の時間のユニバーサル化」を意識し、資料提示を影絵やBGMを準備したい。また話し合いを「可視化」させる工夫として、手品師の葛藤場面では、児童の考えを教師がカードに記入し、黒板に添付する位置を児童に意識させ自ら語らせることで、手品師の心の中の気持ちをさらに深く見つめさせていく。また全体での話し合いを充実させるために、事前に「一人かグループじっくり」の話し合いを充実させる時間を確保する。

4. 本時の学習

(1) ねらい いつも誠実に、明るい心で生活しようとする心情を育てる。

(2) 本時の展開

段階	学習活動 ○主な発問 ・児童の予想される反応	◇指導上の留意点 ☆評価
導入 (5)	<p>(1) 不誠実にされたときの気持ちを発表させる。</p> <p>○ 約束をやぶられたときどんな気持ちになりましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達に嘘をつかれたことがあるな。そのときは・・・。 	<p>◇児童一人一人の思いを想起させることで、ねらいとする価値への方向付けを行う。</p>
展開 前 段 (20)	<p>(2) 「手品師」を読んで話し合う。</p> <p>○ 手品師はどんな気持ちで暮らしていたらろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 貧しいけれど、夢を持ちながら暮らしていた。 <p>○ 「ああ、来るともさ。」と答えた手品師はどのような気持ちだったのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ こんなに喜んでくれるなんて嬉しいな。 ・ 男の子を次も喜ばせてあげたいな。 <p>◎ 迷いに迷っていた手品師の心の中はどんなだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 男の子との約束と重なってしまっている ・ 待ち望んでいたチャンスが来たぞ。 ・ これを逃したら、二度とチャンスはないぞ。 ・ 男の子との約束がある。どうしよう。 ・ 男の子は、楽しみにしているだろうしな。 ・ たとえ大劇場のチャンスがなくとも・・・。 <p>○ 次の日、手品師はどんな気持ちで男の子に手品を見せていただろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ やっぱり約束を守って来てよかった。 ・ いつかはきっとまたチャンスがあるさ。 	<p>◇貧しくとも希望をもっている手品師の人柄に気付かせる。</p> <p>◇男の子に声をかけられずにいられない手品師の優しさに共感させる。</p> <p>◇ 役割演技やカラーカード、トーキングペーパーなどを自由に選択させ、手品師の心の中を共感的に考えさせる。</p> <p>◇「自分で考える時間」と「友達と考え、意見を聞き合う時間」とを分けて考えさせる。</p> <p>☆手品師に共感することを通して、多様な感じ方を引き出せたか。</p> <p>◇葛藤の末に下した自分の決断に対して、すがすがしい手品師の気持ちに共感させる。</p>
展開 後 段 (17)	<p>(3) 今までの自分を振り返る。</p> <p>○ 自分が今まで、嘘やごまかしをしてしまったのは、どんなことでしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達と約束していたけれど、守れなかったことがある。 ・ みんながやっていたから、自分も嘘をついてしまった。 	<p>◇ワークシートやイメージマップに加筆修正をさせ、「心のノート」を開かせながら、生活を振り返らせる。</p> <p>☆誠実な行動について振り返ることができたか。(シートへの記入・発表)</p>
終 末 (3)	<p>(4) 教師の説話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 約束には見えない約束がある。約束にはいろいろな・・・。 	<p>◇教師の体験を紹介し、余韻をもって価値をあたためて終わる。</p>

(3) 授業の実際

<中心場面>

T 迷いに迷った手品師の心の中は
どんなだったのでしょうか。
自分でじっくり考えたり、班の人と
話し合ったりしましょう。

<同じ班のメンバーといつも
話し合っているH児は、みんなの話を
聞きながら、班の中で手を挙げて
積極的に発言>

C すごく迷っているよね。

C どっちにするか……。ぼくは、やっぱり男の子の方に行くと思う。

C 手品師は、どのくらい迷っていたのかと言うと、そうだね、紙に書いてみない？

～H児の班は、紙に板書と同じ人物の位置関係を書きだした。また班の中で二人組になり、手品師と友人との会話を役割演技しながら話し合っている。H児はこうした役割演技をじっと見つめ、嬉しそうに話を聞いている。H児の隣の児童が、H児に「どう思う？」と聞くと、「男の子のことをかわいそうと思う。」と答える。

T それぞれの方法で、手品師の心の中の様子を話し合ったり、考えたりしていたようですが、発表してもらいましょう。Aさんはどのように考えましたか。

C 手品師は、前から思っていた夢の大舞台に立てるチャンスと知り、とても喜んだと思います。けれど、男の子との約束を思い出して、男の子が自分のことをどれだけ待っているかと考えたら、やっぱり、約束を破るわけにはいかないという思いでいっぱいになったんじゃないかと思います。

T 手品師の心は、男の子に向かっている。この黒板で言えば、このあたりですか。

(児童の意見からキーワードになる言葉を短冊に書いて、位置を確認して添付)

T B君は、Cさんと「電話法」(電話による役割演技)で手品師になって話をしていたようですが、手品師になってみて、そのときの気持ちはどうでしたか。

C 友達から聞いたときは、やっぱり嬉しかったです。けれど、男の子は自分の手品を楽しむにしてくれている、ぼくは、絶対に、男の子との約束を守りたいと手品師は思って、男の子のところに行くことに決めていたと思います。

C B君に質問したいのですが、私は、手品師は、そんなにはっきりとは決まっていたとは思えないのですが、なぜB君はそう思うのですか。

C なぜかと言うと、やっぱり、先に男の子と約束をしたからです。男の子がどれほど自分の手品を楽しむにしてくれているかって考えていたからだだと思います。

約束は約束で、やっぱり、男の子と約束を優先させると決めていたと思います。

C なぜ質問したかと言うと、B君が、「はっきりと決まっていた」というからです。私は結果的に決めたとしても、はじめからそんなにはっきりはしてはなかったのじゃないかなって思ったからです。

T なるほど、Cさんの聞きたいことは、どの段階からということですね。そうしますと、



どのくらいこの手品師の気持ちが決まっていたのか、B君が思う位置を教えてもらってもいいですか。(B君は黒板に出て来て、自分の発言をもとにキーワードを書きぬきされた短冊を少し考えながらも、絶対男の子との約束を優先させるのだという強い意見の表出として、男の子の側にぎりぎり近付けて自分の意見カードを貼る。)

C ぼくも、立場的には、D君と同じく、大舞台の方により心が向いていると考えました。

T すると、E君もD君と同じ位置ですか。

C いや、少し違います。

T D君は、夢を大切にしたい(短冊にD男の意見のキーワードを書いて)ということの方が、そのときの手品師の心の中にはあったという意味ですか。D君もこの短冊を自分で置いてくれますか。(D男も黒板に出てきて、少し迷いながらも、自分が予想する手品師の迷いの様子を考えて、自分の意見カードを黒板に貼った。)



T どうぞ、前で置いてみてください。高い位置なので手伝いますね。ここでいいですか。確かにD君とは違うようですが、ここに位置させたのはどういう手品師の気持ちがあると思ったからですか。気持ちを表現した短冊を大舞台の方に配置させた。)

T D君は、夢を大切にしたい(短冊にD男の意見のキーワードを書いて)ということの方が、そのときの手品師の心の中にはあったという意味ですか。D君もこの短冊を自分で置いてくれますか。(D男も黒板に出てきて、少し迷いながらも、自分が予想する手品師の気持ちを表現した短冊を大舞台の方に配置させた。)

C 確かに、心は大舞台の方に向かっているのですが、男の子のことを忘れてしまったわけではないという意味です。

C ちょっと、聞いてみたいのですが、それは、手品師の考えとしては、男の子に向かっているということですか。

T 同じ意見のようでも、微妙に違うものがあったり、理由が全く違うというものがあったりするようですね。Fさんは、どのように手品師の気持ちを考えましたか。

C 班でも話し合いましたが、これは個人としての意見です。男の子は、お父さんを亡くしたので、すごく落ち込んでいたと思います。そんな男の子との約束だからこそ、手品師は守ろうとしたんじゃないのかなって、思います。

H 男の子はお父さんがいないから、かわいそうだから男の子。

T HさんもFさんと同じで、男の子がかわいそうだからこそ、男の子との約束を守りたいと手品師は思っていたということですね。

C 確かに、男の子はかわいそうだからだけど、何かいい方法はないのかなってっ……。有名になってから、何回も呼んであげるとか……。

C でも、男の子は手品師のことをずっと待っていると思うよ。絶対に来るって約束したから。やっぱり男の子(以下略)



授業の実際 II

中学校第2学年1組 道徳学習指導案

平成19年11月21日(水) 第6校時

T1 大越吾都臣(郡山二中)

T2 平野 美和(安積三小)

1. 主題名 人間の気高さ 弱さの克服: 3-(3)・関連価値: 強い意志1-(2)

2. 資料名 青の洞門 (菊池 寛: 著「恩讐の彼方に」一部改編)

3. 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

中学生の時期は、人間の内に弱さや醜さをもつと同時に、強さや気高さを併せもっていることを理解することができるようになってくる。しかし、なかなか自分に自信がもてないでいるだけに、劣等感にさいなまれたり、人をねたみ、恨み、うらやましく思ったりすることもある。また、一方では、崇高な人生を送りたいという人間の気高さを追い求め心もある。したがって、自分を含め人はだれでも人間らしいよさを認めるとともに、決して人間に絶望することなく、だれに対してもその人間としてのよさを見いだしていく態度を育てることが大切である

(2) 生徒の実態

中学2年生ともなると、自分自身を深く見つめられるようになる。しかし、そのとらえ方は、他人と比較して自分自身が劣って見えたり、高い理想や憧れを抱き、それに届かなさがあること、またそれを克服する強さや気高さも併せ持っていることなど、弱さや醜さがある生徒は少ない。学校生活では、生徒会活動や部活動において、3年生に代わって中心的な存在となり活躍しなければならぬ時期であるとともに、中学校卒業後の進路についても具体的な考えを持たなければならぬ時期である。目標をもち、その達成に向け、自分自身の弱さや困難に打ち勝ちながら努力を続けられるようにならなければならないことを育てなければならない。

(3) 資料について

主人公「了海」は、自分のそれまでの行為と良心との相克により、人のためになると信じて、ただひたすらに洞門を完成させるといふ、己の決意を遂げようとする姿は、理屈を超えて人の心の奥底に響き渡る、感動的な文学作品である。時代的な背景等、生徒にとっては、やや難しい内容もあるが、登場人物の心情描写の巧みさから、その主題を的確にとらえられる資料であると考えられる。また、本資料は原作の一部を道徳の時間の資料として改変されたものである。本時の価値も十分にとらえることができるものである。

(4) 指導について

人間には、弱さ醜さがある反面、それを克服しようとする気高い心ももっていること、気づかせるためには、これまでの自分やこれからの自分について客観的に見方をさせる必要があり、これまでの自分については、失敗したことや悩んだことがあってもその都度、反と省をし、それを生かして生きて、現在成長した自分自身が今ここに存在していること、気づかせたい。そのため、小学生がどんな未来を想像しているかを、実際に小学校の児童に書いてもらった作文を紹介することで、今の自分自身の成長を実感させたい。また、がそれのことから自分の将来についても想像させ、理想の自分を思い描かせたい。そして、できるであろうと考える。その気持ちを高めることで、困難や試練に打ち勝とうとする心志を育てたい。さらに、それを自己の具体的な目標に代え、努力していこうとする強い意志を育てることもつなげることで、道徳的実践意欲を高められると考える。

本時の学習活動において、その効果を高めるために、小・中学校の連携を図り、小学校教諭と中学校教諭のチーム・ティーチングの形態で授業を進めることとする。授業協力者である小学校教諭の役割は以下の通りである。

①前段の導入での「小学校の頃の自分を思い出させるきっかけ」

②展開前段での資料の範読

③展開後段での価値の一般化を図るときの発問者

以上、小中連携の授業協力の形をとる。

本時のねらいを踏まえた小学校児童の作文、それに対する中学生の返事を道徳の時間の資料として活用することで、相互の道徳の時間の充実を図れるものと考えている。また、このような授業実践を行うことで、小学校児童の思いと、それに対する中学校生徒の考えを比較することで、小学校では児童の将来を見通し、中学校ではこれまでの指導の過程を把握し、教師相互が縦のつながりを意識した道徳教育の実践が行えるようにしたい。

授業展開においては、資料の共感的活用を基本とした発問構成、展開後段においては、価値観の四類型により、価値の一般化を図る。

4. 本時の学習

(1) ねらい 人間の弱さや醜さを克服して、人間として強く正しく生きること喜びを見いだそうとする心情を深める。

(2) 本時の展開

学習内容・活動 ○主発問	時	生徒の反応	・指導上の留意点 ◇評価
<p>1 本時の見通しをもつ。 (1) T 2 の紹介を聞く。 (2) 本時の目的を知る。 ※小学生が書いた、将来の自分自身への手紙の内容を聞き、それと自分自身を比較する。</p>	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 微笑ましい様子で、小学生の手紙の内容を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ T 2 (小学校教諭) の紹介を兼ね、本時の学習活動の目的について説明し、課題意識をもたせる。 (※T2より、小学生が中学生についてどんなイメージをもっているかなどの知りたいことを告げる。客観的な立場で過去の自分を見つめられるようにする。)
<p>2 資料を読んで話合う。 (1) 「了海」の決心について考える。 ○「了海」はどんな思いで同門を掘り続けたのか。 (2) 「実之助」の気持ちの変化について考える。 ◎「実之助」はなぜすべてを忘れ「了海」を許すことができたのか。 (中心発問)</p>	25	<ul style="list-style-type: none"> ・ すさまじい決意を感じ、それがなぜなのかを考える。 ・ 親を殺害された子の気持ちに共感しつつも、その変化を生んだ理由について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 洞門が実在することを印象付け、了海の姿に自我関与させる。 ・ 罪滅ぼしの気持ちから、正気とは思えないほど、ひたすらに洞窟を掘り続ける了海の姿と費やしたその長い月日をイメージさせる。 ・ 9年の間、親の仇討ちのために了海を追いかけてきた実之助の執念について、親を思う子の気持ちから考えさせる。
<p>3 これまでの自分をふり返る。 (1) 弱い心と強い心が揺れ動くときの自身の場面を想起させる。 (2) 今までの自分自身の生活について</p>	10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 悪魔と天使の心というイメージから、これまでの二つの心の葛藤を振り返る。 ・ 4つから自分の姿により近いものを選ぶ。 ・ 他の人が何を選んだかを確認し、自分が選んだ選択肢についての理由を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 価値観の4類型を活用し、価値の一般化を図る。 ・ 資料の話合いから自然に広げるため第1の発問をし、第2の発問により、自己の生活をふり返らせる。 <p>①強い心で何でも取り組んでいる方 ②強い心で取り組むことの大切さを知っているが、弱い心に時々負けてしまうことがある。 ③弱い心が勝ってしまうことが多い。 ④ 弱い心がいつもあり、いろいろなものに自信がない。</p> <p>◇ 人として強く生きること喜びを見い出そうとする心情が高まったか。(発言・表情)</p>
<p>4 これからの自分について考える。 (1) 小学生の手紙に返事を書く。 (2) 教師の説話を聞く。</p>	10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 過去の自分に向かって本気になってアドバイスをする姿。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 過去と未来の自分になったつもりで記入する手紙は、ロールプレイの手法とも考えられる。本時の価値を日常においても継続的にあたためていこうとする実践への基礎にさせる。

(3) 授業記録授業記録 (抜粋)

※T：中学校教諭 t：小学校教諭

T1 今日小学校から先生がいらっしゃっています。紹介します。安積第三小学校の平野美和先生です。

t1 みなさん、こんにちは。私は今小学2年生の担任をしています。みなさんも今はこんなに大人ですが、自分達が2年生の頃のことを覚えていますか。今、恥ずかしそうに首を傾けた人がいますが、もう6年前のことだから、きっと、はっきりとは覚えていない人の方が多いことでしょう。みなさんのそんな幼い頃「2年生の自分」から手紙が届いていますよ。



<tによる小学生の手紙朗読> 略

t2 みなさんは、6年前どんなことをがんばっていたのでしょうかね。かすかに記憶がよみがえってきましたか。あの頃思っていたことを今もがんばっていますか。

T2 今日、初志貫徹、一つのことをやり遂げた人の話です。「青の洞門」<t資料読解>



略

t2 中学生ともなると、本当にいろいろな意見が出てきて、すごいですね。今、「気高さ」という言葉が出てきましたが、みなさんもこのような人の姿に気高さを感じて感動したことがありますかあるいは、逆に自分自身が、何かを決めて一心に打ち込んでやり続けたこと、やり遂げたことはありませんか。

C4 私は部活です。試験が近くなるとやっぱり寝ちゃって、できなくて、でもどちらもきちんとやりたいなって……。でも続けるのって難しいです。

C5 ぼくも部活です。以下略 <価値観の四類型へ>

t4 それでは、みなさんが選んだ記号を教えてください。列ごとに黒板に貼ってください。なるほど、ここに置いたのは〇〇さんですね。なぜこの姿が一番自分に近いと考えたかを教えてくださいませんか。

C6 置いてみて、私だけだったので、ちょっと恥ずかしいのですが、全部この姿というわけではなくて、今自分の夢を実現させるためには、目の前の勉強をがんばるしか方法がないから、やり続けているからです。

t5 ありがとうございます。ここが一番人数が多いようですが、理由を聞いてみると、それぞれの違いがありそうですね、<略>

t6 私が今回タイムマシンのように昔のみなさんからの手紙をはじめに読みましたが、そんな昔の自分に今の自分からメッセージを届けてみませんか。<小学校2年生が宛てた手紙に返事を書く中学2年生>



T10 みんな集中して、書き込んでいましたね。

今の自分は過去にもつながっているし、実は未来にもつながっているんだと思うのです。未来の自分に向かって今胸をはっていられる自分かな。未来の自分もきみ達からのメッセージを待っているんじゃないかな。

t7 メッセージを確実に昔のみなさんに届けます。また会える日を楽しみにしています。